



hase[®] - Bari

(Model 8170) Wood Stove

OWNER'S MANUAL



バリ (モデル 8170)
オーナーズ・マニュアル
取扱説明書

お使いになる前に必ずお読みください。
また、必要なときに参照できるよう大切に保管してください。



ハースストーン日本総輸入元

長野総商株式会社

〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町馬瀬口 1625-83

Tel: 0267-32-2353 / Fax: 0267-32-2690

目次

はじめに	3
ご使用上の注意	3
安全のために	3
定期点検チェックリスト	4
緊急時には	4
製品仕様	5
ローテーション・ロックについて	5
ストーブの操作について	6
コントロールと機能	6
薪について	7
慣らし焚き	7
毎日のご使用について	8
点火方法	8
燃焼温度	8
焚きすぎの注意	9
灰の処理方法	9
メンテナンス	10
クレオソートの形成と除去について	10
フロントドアの外し方	10
ガasket	10
ガラス	11
ソープストーン	13
トラブルシューティング	14
パーツリスト	16

はじめに

バリ（モデル 8170）は、米国 EPA（米環境保護局）認定クリーンバーン方式の薪ストーブです。触媒式ストーブに必要なメンテナンスの手間やコストを抑えながら、クリーンで心地よい暖かさを提供します。先端技術と、ソープストーンの美しさを融合したドイツ、ハセ社とのコラボレーション・ストーブをお楽しみください。

 この取扱説明書は、ストーブの安全、慣らし焚き、操作方法、メンテナンスについて理解していただくためのものです。いつでも参照できるよう、お手元に保管してお持ちください。

ご使用上の注意

- ストーブや煙突の近くに衣類、家具、カーテン、紙などの燃えやすいものがないことを確認してください。
- ガソリン、灯油などの可燃性の液体をストーブの側に置かないでください。
- 小さなお子様がいらっしゃる場合はハースゲート等を設置し、ストーブや煙突に近づけないようご注意ください。
- ストーブ使用中は高温になりますので、火傷にご注意ください。
- 通常使用を始める前に、最低3回（3日）は必ず慣らし焚き（7ページ）を行ってください。
- よく乾燥させた薪を燃やしてください。
- 熱くなったストーブに薪を補充する際は十分注意し、補充時以外はドアを閉めておいてください。
- 灰受け皿は常に取り付け、しっかりと閉めた状態でご使用ください。
- 煙突の定期点検を行ってください。

安全のために

- ストーブを決して改造しないでください。
- キルン乾燥材、塗装木材、処理済木材、溶剤、ゴミ、合板、カラー紙、光沢紙、ボール紙、石炭、流木は燃やさないでください。特に、このストーブで石炭は決して燃やさないでください。
- ガソリンタイプ燃料、灯油、木炭用ライターオイル、または他の液体燃料を着火目的や燃焼を促進する目的で使用しないでください。これらの燃料は酸素を使い果たし一酸化炭素を発生させる恐れがあります。ストーブの側には決して置かないようご注意ください。
- 灰受け皿の損傷時や、灰受け皿を開けた状態でのストーブ使用は控えてください。
- フロントガラスに薪を立て掛けたり、薪がガラスに触れた状態で使用しないでください。
- ドアをボタンと強く閉めたり、ドアで薪を押し込むことはしないでください。
- 燃やしすぎないようにご注意ください。（焚きすぎの注意：9ページ）
- 衣類やキャンドルなどを熱くなったストーブに載せないでください。
- 他のストーブに接続された煙突に接続しないでください。

その他

- 家具、カーテン、衣類などの移動可能な可燃物は、ストーブから最低1メートル離してください。
- 薪ストーブから離れた場所に煙探知器を設置することをお勧めします。
- 万一の場合に備え、消火器は手の届く場所に用意しておきましょう。
- 灰は適切に処理してください。（灰の処理方法：9ページ）
- お子様やペットがストーブに近づかないようご注意ください。火傷の恐れがあります。
- 必要に応じて煙突掃除を行ってください。

定期点検チェックリスト

毎週

- ✓ 炉内と灰受け皿の灰をチェックし、必要に応じて灰を処理してください。

隔月

- ✓ 使用頻度に応じ、煙突内のクレオソートをチェックしてください。(10 ページ参照)
- ✓ “ドル紙幣テスト”と言われる方法で、ドアガasketをチェックしてください。ストーブが冷めた状態のときに紙をはさんでドアを閉め、そのまま抵抗なく紙を抜き取ることができるのであれば、ガasketの交換時期です。

シーズンの終わりに

- ✓ 煙突を点検し、必要に応じて煙突掃除を行ってください。
- ✓ 炉内の掃除を行ってください。
- ✓ ドアガasketをチェックし、磨耗、擦り切れ、亀裂や極度に硬くなっている場合には交換してください。

緊急時には

万が一、煙道火災が発生した場合、火災が激しいときは、直ちにその場を離れ、消防に連絡をしてください。火災が軽度の場合は以下の手順で対応してください。

1. エアークントロールを閉めてください。
2. もしあれば、ストーブパイプのダンパーを閉めます。
3. フロントドアをしっかりと閉めた状態にします。

煙道火災発生時の注意

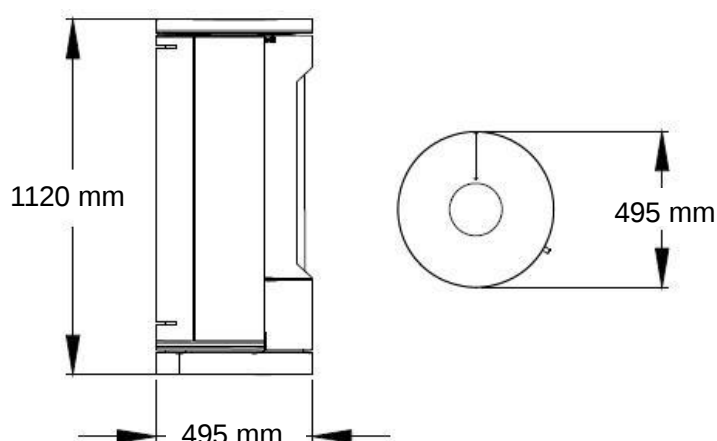
ストーブ本体、煙突に決して水をかけないでください。煙道火災は大変高温になりますので、瞬間的に水蒸気を発生させ、身体的危害を引き起こす原因になります。

煙道火災がおさまった後もエアークントロールは閉めたままにし、ストーブ内の炎が完全に燃え尽きるまで待ちます。ストーブや煙突の点検を行い、損傷部分の交換または修理が終わるまでは、決してストーブを使用しないでください。

製品仕様

最大出力	8,820 kcal/hr
最大暖房面積	110 m ² (33 坪)
最大薪長さ	43 cm
ストーブ寸法	h1120 x Φ495 mm
使用煙突径	6 インチ
重さ	216 kg

* 最大暖房面積は、建物の断熱状況、窓の数、間取り、ご使用の薪の乾燥度や種類によって制限されます。



ローテーション・ロックについて

バリは左右に 90 度ずつ（計 180 度）回転させることができます。回転させるには、フロントドア下にあるコントロールドアを開け、コントロールレバーを踏みながらストーブを回転させてください。回転しないようにするには、以下の手順でローテーション・ロックを取り付けてください。

- ① ストーブが 0 度の位置にあることを確認します。（図 1）
- ② コントロールレバーを持ち上げ、手前のネジを六角レンチで外します。（図 2）
- ③ コントロールレバーを時計回りに回し、つめが外れたら上に持ち上げて外します。（図 3）
- ④ ローテーション・ロックを取り付け（図 4）、六角レンチでネジを固定します（図 5）。



図 1



図 2



図 3



図 4



図 5

ストーブの操作について

🔥 使用中はストーブが大変熱くなりますので、お子様が近づかないようご注意ください。また、ストーブのそばに可燃物を置かないでください。

コントロールと機能

フロントドアハンドル

（ストーブ使用中は大変熱くなりますので、開閉時にはストーブ・グローブをお使いください）

開けるとき： ドアハンドルを手前に引きます。

閉めるとき： ドアハンドルを持ってドアを閉じ、そのままハンドルを押してしっかり閉めます。

アッシュグレートレバー（図 6—①）

（ストーブ使用中は大変熱くなりますので、ストーブが冷めてから操作してください）

アッシュグレートレバーを操作するには、フロントドア下のコントロールドアを開けてください。灰受け皿（アッシュパン）の右上にあります。アッシュグレートを開けるには、アッシュグレートレバーを手前に引きます。灰受け皿（アッシュパン）に灰を落としたら、レバーを奥に押してグレートを開めます。

灰受け皿（アッシュパン）

（ストーブ使用中は大変熱くなりますので、ストーブが冷めてから操作してください）

まずフロントドア下のコントロールドアを開けます。灰受け皿（アッシュパン）を取り出すには、アッシュパンハンドル（図 6—②）を持って時計回りに 90 度回転させてから引き出します。灰受け皿（アッシュパン）の下にフタがありますので、灰受け皿を持ち運ぶときにお使いください。

🔥 使用後は必ずフタを元の位置（灰受け皿の下）に戻してください。フタがないと灰受け皿がしっかりと閉まりません。

灰受け皿は溜まった灰の処理に便利です。定期的にアッシュグレートを開けて灰を落としたら、灰受け皿を引き出して灰を処理します。灰受け皿を戻すときには、まずフタを元の位置に戻してからフタの上にスライドさせるようにして戻します。しっかりと納まったら、ハンドルを反時計回りに 90 度回転させて閉めます。

🔥 灰受け皿が納まっていない状態や、しっかりと閉まっていない状態では決してストーブを使用しないでください。過度燃焼を引き起こし、ストーブ損傷の原因になります。また灰の扱いにはご注意ください。

プライマリーエアーコントロール（図 6—③）

（ストーブ使用中は大変熱くなりますので、ストーブ・グローブをお使いになるか、ストーブが冷めた状態で操作してください）

プライマリーエアーコントロールハンドルは、灰受け皿の下にあります。ストーブ炉内に入る空気の量を調節します。空気量が多いと燃焼は加速し高温になり、少ないときはゆっくり燃焼します。空気を入れるには手前に引き、空気量をしばらく抑えたいときは奥へ押します。一番奥にある状態でも、完全に閉じることはありません。

ローテーションコントロール

バリは 180 度回転が可能です。中央の位置から左右にそれぞれ 90 度ずつ回転します。

回転させるには、コントロールドアの中にあるローテーションコントロールレバー（図 6—④）を使います。レバーを踏むとロックが解除されますので好きな位置まで回転させます。レバーから足を放し、ストーブをわずかに回転させてロックさせます。

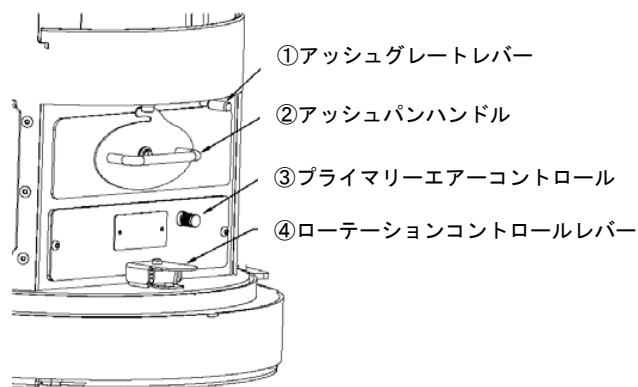


図 6

薪について

バリは薪専用のストーブです。

化学薬品、またはガソリン、ナフサ、灯油、木炭用ライターオイル、エンジンオイルなどの可燃性の液体を着火剤として使用しないでください。木炭、ペレット、石炭などの薪以外の燃料を使用しないでください。また、ゴミを燃やさないでください。

熱量、燃焼時間、ストーブの性能には、薪の質が影響します。軟木（針葉樹）はすぐに火力が上がりますが火持ちが悪く、一方で堅木（広葉樹）は火持ちがよくて炭が多くでき、暖める力が大きいため、理想的な薪であると考えられます。

薪の水分含有量も、ストーブの性能に大きく関わります。切ったばかりの生木には水分が多く含まれ、なかなか燃えません。薪ストーブで使用するには、事前によく乾燥させることが重要です。割った薪は日当たりがよく風通しのよい場所に積み、少なくとも一年間乾燥させます。薪は直接地面に触れないよう木製のパレットやブロックの上に積み、また雨に濡れないよう一番上だけ覆いをします。側面を防水シートなどで覆ってしまうと水分が逃げず、乾燥しません。薪を積むときのポイントは、“ネズミは通れるが、ネズミを追いかけるネコは通り抜けられないぐらいの隙間”を開けることと、アメリカ、バーモント州では古くから言われています。

慣らし焚き

本格的なご使用の前に、ゆっくりとストーブを慣らししていきます。新しいストーブを一気に高温で使用すると、ソープストーンやその他の部品に割れや破損が生じる恐れがあります。ソープストーンには水分が含まれているため、ゆっくりと低めの温度で数回慣らし焚きをして乾燥させます。慣らし焚きにより、組み合わされた各部品も馴染んでいきます。

焚き始めにはストーブや煙突表面から煙や匂いが出ますが、これは表面の塗料が焼けたもので、通常 10～20 分でおさまります。必要であれば窓を開けて換気をしてください。

取扱説明書に忠実に慣らし焚きを行い、その後も正しくお使いいただければ、鋳鉄部分とソープストーン部分ともにトラブルなく長い間お使いいただけるでしょう。ご使用とともにソープストーンの色は変化し、表面に細かいひびのようなものが見られる場合がありますが、これらはストーブの性能に影響を及ぼすものではなく、ストーブごとの個性や特徴に過ぎません。

ガラス、ソープストーン、鋳鉄、スチール部分が破損する恐れがありますので、以下にご注意ください。

- ストーブの中に薪を投げ入れないでください。
- フロントドアを使って薪を押し込まないでください。
- 表面の凍った薪を燃焼中のストーブの中に入れてないでください。熱衝撃により破損する恐れがあります。
- 炉内には既製品のグレートやロストルを置かず、炉床の上で直接薪を燃やしてください。

慣らし焚きの手順

 **ストーブに火を入れる前に、アッシュグレートと灰受け皿が閉まっていることを必ず確認してください。**

- ① フロントドアを開け、着火剤か、きつくねじった新聞紙 5，6 本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径 15 ミリ程度）を 10 本ほど交差させて置きます。
- ② プライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。（プライマリーエアーコントロールハンドルを手前に引きます）
- ③ 着火剤（新聞紙）に点火します。焚きつけに火が着いて上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間フロントドアをかすかに開けた状態にします。
- ④ フロントドアを閉めます。

- ⑤ 低温での燃焼を維持するようストーブから目を離さないようにしてください。最初の燃焼ではストーブを暖めるのが目的なので、多くても、細めの薪を2, 3本足す程度で安全な慣らし焚きに必要な温度に達するはずです。
- ⑥ ストーブが暖まったらプライマリーエアーコントロールを閉め、薪が燃え尽きるまで燃やします。
- ⑦ ストーブを室温になるまで冷まします。

慣らし焚きは最低3回（または3日）、上記手順で必ず行ってください。最初のご使用前だけでなく、毎年のご使用前には同じ手順で一回慣らし焚きを行うことをお勧めします。毎年これ続けることでストーブは整えられ、きちんと応えてくれます。

 慣らし焚きでは煙突内の温度が低いいためクレオソートが付着しやすく、フロントガラスの汚れも付きやすくなります。慣らし焚き終了後はストーブパイプや煙突を点検し、必要であれば掃除を行ってください。

毎日のご使用について

長期間使用していなかったときやシーズンの初めには、通常使用を開始する前に最低一回は慣らし焚きを行ってください。急激な熱によってかかるストレスを軽減する働きがあります。また、ご使用前に、アッシュグレートと灰受け皿が閉まっていることを確認してください。開けたまま使用を続けると、焚きすぎによりストーブの損傷を招きます。

点火方法

- ① フロントドアを開け、着火剤か、きつくねじった新聞紙5, 6本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径15ミリ程度）を10本ほど交差させて置きます。
- ② プライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。（プライマリーエアーコントロールハンドルを手前に引きます）
- ③ 着火剤（新聞紙）に点火します。焚きつけに火が着いて上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間フロントドアをかすかに開けた状態にします。
- ④ フロントドアを閉めます。
- ⑤ 焚きつけが燃えてきたらフロントドアを開け、薪を追加します。最初は細めの薪を足し燃焼を促進させます。フロントガラスのエアーウォッシュシステムが機能するよう、薪はフロントガラスから離してください。燃焼中は、フロントドアと灰受け皿は閉めておきます。
- ⑥ よく燃えてきたら、プライマリーエアーコントロールで燃焼温度を調節してください。手前に引くと空気が入ってよく燃え、奥へ押すと空気量が少なくなり、ゆっくりと燃焼します。

 薪の補充時にフロントドアを開けるときは、最初に少しだけ開けてから間隔を置き、それからゆっくりとドアを開きます。こうすることで炉内の煙がなくなり、部屋への逆流を防ぎます。

燃焼温度

高温燃焼：十分に熾きができた状態、または薪がよく燃えている状態で薪を追加し、プライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。高温燃焼は、一日に1, 2回としてください。高温燃焼によりストーブパイプと煙突を温め、クレオソートの付着を抑えます。

中温燃焼：プライマリーエアーコントロールハンドルをちょうど中間の位置まで動かします。この燃焼温度が標準セッティングで、ストーブの周りに人がいない場合には、この状態が望ましいとされています。

低温燃焼：プライマリーエアーコントロールハンドルを一番奥まで押します。長時間の低温燃焼はクレオソートの付着を促すため、お勧めできません。低温燃焼が継続される場合には、ストーブパイプや煙突をまめに点検してください。

焚きすぎの注意

ストーブの損傷を防ぐため、焚きすぎには十分注意が必要です。焚きすぎの状態では、燃焼時間が短くなったり、ストーブまたはストーブパイプからごうごうとうなるような音が聞こえたり、ストーブパイプに変色が見られます。

焚きすぎ防止のため、以下にご注意ください。

ドラフト：引きが強すぎる場合は販売店にご相談ください。

使用燃料：石炭、キルン乾燥木材など、自然乾燥させた薪以外は燃やさないでください。

操作方法：フロントドア、アッシュグレート、灰受け皿を開けたまま燃やさないでください。

メンテナンス：ガスケットをチェックし、剥がれたり擦り切れたりしたものは交換してください。

焚きすぎ予防のためストーブトップの表面温度は定期的にチェックしてください。焚きすぎが疑われる場合には販売店にご相談ください。**焚きすぎによる損傷は保証対象になりません。**焚きすぎによる損傷には、内部パーツのゆがみや焼損、バーミキュライトボードの割れ、外部パーツの変色やゆがみ、ストーブ表面の損傷が含まれます。

灰の処理方法

灰を処理する際は、ストーブが完全に冷えてから行ってください。灰受け皿がまだ暖かい場合には、ストーブ・グローブをご使用ください。灰の扱いには十分ご注意ください。

炉内の灰は定期的に取り除き、約7センチ以上蓄積しないように注意してください。特に、フロントドア開口部からこぼれようにご注意ください。

灰を取り除くには、まずアッシュグレートレバーを使って灰受け皿に灰をふり落とします。アッシュグレートレバーを元の位置に戻してから、アッシュドアハンドルを時計回りに回してアッシュドアを開け、灰受け皿をゆっくりと手前へ引き、灰受け皿にフタをして取り出してください。

灰を処理し終わったら、まずフタを戻してから灰受け皿を元の位置へ戻し、アッシュドアハンドルを反時計回りに回転させてしっかりと閉めます。灰受け皿の下にフタがない状態では、きちんと閉まりませんのでご注意ください。

灰は金属製のフタ付き容器へ移します。容器の中へ灰以外のものを入れないでください。また、水をかけないでください。灰を容器へ移したらフタを閉め、灰を冷まします。容器が熱くなることがありますので、灰を入れた容器は可燃性の床の上には置かないでください。灰の中に残った炭は数日間熱を保つ場合があります。灰が完全に冷えるまでは必ずフタをした状態で、不燃性の床か土の上に置き、可燃物から離しておいてください。**木製やプラスチック製の容器、紙袋やビニール袋には決して灰を入れないでください。**

メンテナンス

クレオソートの形成と除去について

薪がゆっくりと燃えている状態ではタールやそのほかの有機蒸気が発生し、蒸発した水分と組み合わせあってクレオソートを形成します。クレオソートはゆっくりと燃えているストーブの比較的温度の低い煙突に付着し、結果的に蓄積されてしまいます。クレオソートに火が着くと極めて高い温度で燃焼し、煙突にダメージを与えるだけでなく、ときには建物の火災をも引き起こします。ストーブを使用するシーズン中は、2ヶ月に一度はストーブパイプと煙突内を点検し、クレオソートの形成が進んでいないかどうか確認することをお勧めします。クレオソートの厚みが6ミリ以上のときは、煙突火災予防のため煙突掃除を行ってください。

クレオソートの形成を防ぐには

- ① 毎日焚き始めに30分程度、プライマリーエアーコントロールを全開にして燃やします。
- ② 薪を補充した後も、20～30分はプライマリーエアーコントロールを全開にして燃やします。こうすることで二次燃焼システムが早い段階から有効に機能し、煙道内のクレオソートの形成を最小限に抑えることができます。

フロントガラスが汚れやすい場合は燃焼温度が低いか、薪が乾燥していない可能性があります。その場合には、クレオソート形成の危険性が高いと考えられます。

表面温度が低い部分はクレオソートの形成が進みやすいため、煙突を点検するときは、最も温度が低いストーブとの接続部とトップに近い部分を点検してください。

クレオソートの除去には、使用煙突に合ったブラシを使い、煙突掃除を行ってください。また、シーズン前には、専門業者による点検、掃除をお勧めします。

フロントドアの外し方

- ① フロントドアを開け、上側のヒンジピンからプッシュナットを外してピンを外します。
- ② ドアの上部を外側に少し傾けてドアを持ち上げます。ドアの重さは約37 kg ありますので、必要であれば助けを借りてください。
- ③ 下側のピンに真ちゅう製のワッシャーが残っている状態であることを確認してください。
- ④ フロントドアの外側を下に向け、傷が付かないように布などを敷いた台の上に置きます。メンテナンスの間、動かないように丸めたタオルなどを使って固定します。

ガスケット

ガスケットの交換は、使用頻度にもよりますが、通常2～3シーズンに1回が目安です。ガスケットはストーブの気密性を保ち、燃焼効率を上げる役割をします。ガスケットは専用のものをお使いください。

フロントドアガスケット交換手順

交換用ドアガスケット：パーツ no. 3110-200752, 9/16 インチ（14 mm）、長さ 200 cm

- ① 上記手順に従ってフロントドアを外し、サイドプレートも外します。古くなったガスケットを外し、ドライヤーやワイヤーブラシ等で溝をきれいに掃除します。
- ② 必要に応じて内側を掃除し、サイドプレートを大まかに取り付けます。
- ③ 接着剤を3ミリ程度ずつ溝に注入していきます。ガスケットを半分に折って真ん中の位置を見つけ、ドア上部中央または下部中央からガスケットを引っ張らないように均一に溝に入れていきます。
- ④ ガスケットを取り付けたらサイドプレートをしっかりと取り付けてガスケットを固定します。

- ⑤ フロントドアを取り付けたらドアを閉めて、溝にガスケットをしっかりと接着させます。
- ⑥ “ドル紙幣テスト”（4 ページ参照）を行って隙間がないかどうかチェックしてください。位置を変えて何箇所かでチェックすることをお勧めします。抵抗なく紙が抜けてしまうようであれば、密閉度が低く空気がもれる可能性があります。紙を抜くことができない場合はドアがきつすぎて、ガスケットが速く劣化する可能性があります。位置によって異なる場合には、ガスケットが引っ張られて厚みが均一でないか、溝にしっかりと納まっていないか、接着剤を多くつけすぎた可能性があります。
- ⑦ 必要に応じ、ガスケットを調節しながら均一になるように貼りなおします。それでも修正できない場合は、ドアラッチを調節します（下記参照）。接着剤が乾くまで、ドアを閉めた状態で 24 時間は火を燃やさないでください。

ドアラッチ調節方法

ガスケットの密閉度を修正するためにドアラッチを調節するときは、少しずつ調節しながらガスケットのチェックを行ってください。カーブしたドアの性質上、わずかな変化によってうまく開閉ができなくなることがありますのでご注意ください。また圧力をかけすぎてしまうと開閉がスムーズでなくなり、部品の劣化を早めてしまう可能性があります。

- ① ボルトをゆるめるか、ジャックスクリューを調節します。またはボルトとジャックスクリュー両方を調節しガスケットにかかる圧力を調節します。（図 7 参照）
- ② 必要であれば、フロントドアのサイドプレートに固定している 5 つのボルトをゆるめてサイドプレートをストープ側に動かす（圧力を少なくする）か、外側へ動かして（圧力をかける）、ガスケットへの圧力を調節します。（図 8 参照）

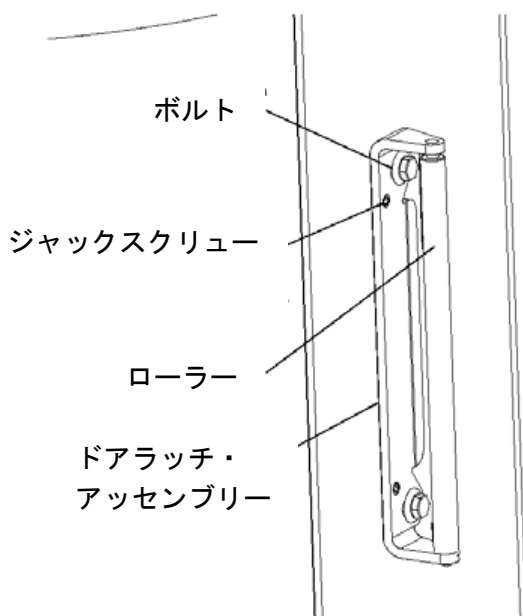


図 7 ドアラッチ・アッセンブリー

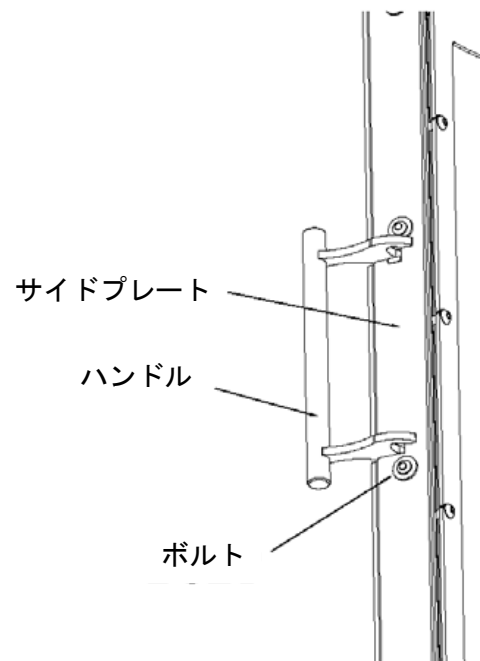


図 8 ハンドル・アッセンブリー

ガラス

ガラスに割れやひびが生じたときは、ストープを使用しないでください。また、ガラスに衝撃を与えたり、ドアを勢いよく閉めないでください。

- 🔥 表面に引っかき傷ができるとガラスの強度が落ち、割れる危険性があります。カッターなどの鋭利な刃物、スチールウールや研磨剤を使ってガラスの汚れを落とさないでください。

ガラスの掃除方法

必要に応じ、薪ストーブ専用のガラスクリーナーを使ってガラスの汚れを取り除いてください。ただし、ストーブの使用時やガラスが熱いときにガラスを磨かないでください。専用ガラスクリーナーの取扱説明に従ってガラスの汚れを落としてください。汚れがしつこい場合には、ストーブからフロントドアを取り外して（10 ページ参照）平らな台の上に置いて行ってください。丸めたタオルなどで固定して、汚れが一番低い位置にくるようにすると液が浸透して落ちやすくなります。数分置いたあとでやわらかい布か新聞紙でふき取ります。

フロントガラスはセラミック製で熱衝撃に強く、薪ストーブ専用で作られたものです。割れたときには販売店に連絡し、新しいガラスに交換してください。薪ストーブ用に作られたものではないガラスは決して使用しないでください。

 ガラスが割れたりかけたりしたときは速やかに交換してください。交換するときは作業用手袋と保護メガネを使用してください。

ガラス・ガラスガスケット交換手順 （図 9 参照）

交換用ガラスキット：パーツ no. 040-057-V（交換用ガラスキットに付属の説明書も参照してください）

- ① 本体からフロントドアを外します。（10 ページ参照）
- ② ガラスリテイナーを固定しているネジを外し、ガラスから取り外します。
- ③ インナーガラスフレームを外します。
- ④ 割れたガラスを慎重に取り外し、廃棄します。
- ⑤ 古くなったガスケットをフレームから取り除きます。
- ⑥ ネジ穴をきれいにし、焼付き防止グリスを注します。
- ⑦ 新しいガラスにガスケット（シール付）を付け、ドアに取り付けます。
- ⑧ **ガラスの端がフレームの端と平行になり、ガラスが中央にくるように置きます。**
- ⑨ インナーガラスフレームを取り付けます。（リテイナーからガラスにかかる圧力を制限します）
- ⑩ ガラスの位置がフレームと並行で中央にあるかどうか再度確認したら、ガラスリテイナーをドアに取り付けます。十字を描くような順番で取り付けていきます。あまり強く締めすぎないようにご注意ください。また、ガラスの位置が一方に寄りすぎてしまうと、外側からガスケットが見えます。
- ⑪ 必要に応じてドアのヒンジピンやワッシャーに焼付き防止グリスを注します。
- ⑫ フロントドアを本体に取り付けます。
- ⑬ 5、6 回使用した後で、クリップをチェックし、必要であれば再度強く締めなおしてください。

バーミキュライトパネル交換手順 （図 10 参照）

- ① アウターレフトパネルとアウターライトパネルのドア側の端の隙間にあるパッキンを取り除きます。
- ② アウターライトパネル上部のパネルロックプレートを外します。
- ③ アウターライトパネルを右方向へわずかにスライドさせ、パネルの上部を炉内のほうへ傾けて外します。
- ④ ほかのパネルも全て右へスライドさせて、同じように取り外していきます。
- ⑤ アップーパネルを取り外すには、エアーチューブを固定しているネジを外して左へスライドさせて取り除き、アップーパネルを外します。
- ⑥ 新しいサイドパネルは、アウターライトパネルがあった場所から左方向へスライドさせて取り付けます。再度パネルはすべて同じ形です。
- ⑦ 全て取り付けたら、パネルロックプレートを元の位置に取り付けます。
- ⑧ サイドパネルを中央に寄せるようにして、ドア側の隙間を左右均等にし、パッキンを取り付けます。
- ⑨ アップーパネルを取り付けるには、まず奥側をバッフル板の下スペースに差し込み、支えながらエアーチューブを取り付けてネジで固定します。

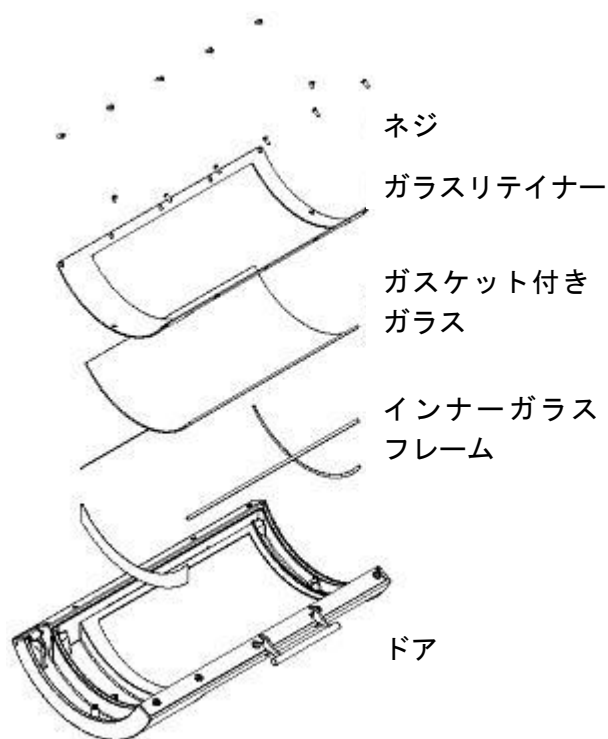


図9 ガラス・アッセンブリー

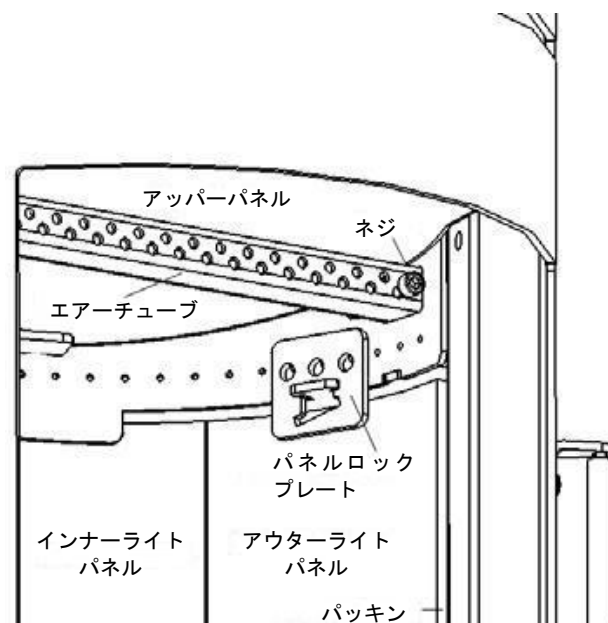


図10 パーミキュライトパネル詳細

ソープストーン

バリに使用されているソープストーンはサイズが大きく重量がありますので（総重量 68 kg）、設置する際には二人以上で行ってください。ソープストーンは落とすと割れます。

ソープストーンお手入れ方法

ソープストーン本来の美しさを保つために、水、研磨剤を含まない洗剤、やわらかい布を使い、ときどき拭いてください。ほこりはきれいな布で拭いてください。化学薬品は使わないでください。また、ワックスや、その他の艶出し剤や研磨剤も使用しないでください。ソープストーンの表面を傷つけたり、角を削ることのないように気をつけてください。ソープストーンの表面を傷つけたり、角を削る可能性のあるものは、天板の上に置かないようにしてください。もし補修が必要な場合には、240 番手の紙やすりで簡単な補修は可能です。

ご使用年月の経過とともに、石の表面に薄い茶、赤、黄色などのかすかな色の変化が現れることがありますが、これはソープストーンに見られる自然な反応です。また、正常な使用においても、細い線状のひびのようなものができることがあります。これらの変化はストーブの性能や安全性に影響を及ぼすものではなく、交換の必要はありません。

トラブルシューティング

薪ストーブユーザーが遅かれ早かれ直面する問題は一般的に共通したのですが、それらのほとんどはちょっとした操作方法の調整などで修正が可能です。天候状態がストーブのパフォーマンスに大きく影響する場合には、問題は概して一時的なものである場合が多く、天候が戻れば自然と問題はなくなります。

ご使用中のストーブから適切な熱供給がされているのかどうか疑問に思うのであれば、ストーブパイプの温度を監視することが一番効果的な方法です。ストーブトップから 30 センチ以内の高さに表面温度計を設置して温度を監視します。一般的に、ストーブパイプが 200℃であれば、ストーブが十分な熱を供給できている証拠です。ただし、部屋の温度を決定するのはストーブからの熱量だけでなく、家自体の断熱性、気密性、窓ガラスの数や大きさ、建築様式（吹き抜け天井など、熱が分散しやすいスペースの有無を含む）など、全てが影響するということも頭に入れておいてください。

ストーブの性能は設置方法によって影響を受けることもあります。最もよくある原因は、太すぎる口径の煙突を使用していることです。太すぎる煙突はドラフトが起こりにくく、煙の引きを妨げます。とりわけ熱効率のよいストーブの場合には、効率のよい燃焼が困難でもあり、煙道内の温度が低いということは、クレオソートの付着を促進させることにつながります。また、十分なドラフトが起こらないと火が消えてしまったり、煙が部屋のほうへ逆流する原因にもなります。

煙突が適したサイズであるにも関わらずドラフトが起こりにくい場合には、煙突が冷たすぎる可能性があります。繰り返しになりますが、煙突が暖まらないとドラフトは起こりません。着火時にドアを少し開けておくことで解消されることもあります。

ドラフトに影響を与えるその他の要因

高気密住宅：高気密住宅の場合には室内の空気が不足し、換気扇や衣類乾燥機などの使用により、さらに状況を悪化させます。外気導入アダプターを取り付けることで問題は解決します。

背の高い木や建物：煙突のトップ近くに高い木や建物がある場合には、煙の逆流が起こることがあります。これは慢性的に起こる場合も一時的な場合もあります。煙突を設置する際には、設置場所近辺にある建物などの位置を考慮する必要があります。

風：一般に、安定した強い風であれば、強いドラフトが起こりやすいと言われます。しかし突発的な風は煙の逆流を招く原因となります。

気圧：一般に、穏やかな日、雨の日、蒸し暑い日などはドラフトが起こりにくいとされていますが、天候が変われば解決するでしょう。

活発な燃焼：ストーブの火が強く、煙突の温度が上昇すると、強いドラフトが起こります。

煙突の部材接続部：点検口や部材接続部などがしっかりと密閉できていない場合、十分なドラフトが起こらない原因となります。

季節：秋口や春の終わりは適度なドラフトが起こりにくい季節です。室温と比べて外気温が低いほうが、ドラフトが発生しやすいと言われます。

 ドラフトが簡単に起こらない日もありますが、ほとんどは季節的な要因と煙突が暖まりにくいことがその原因です。そのようなときは、細い焚きつけを使って火をおこし、より速く火力が上がるようにします。煙突が暖まって速くドラフトが発生するよう、こまめに細い薪を補充して火の面倒をみましょう。

トラブルシューティングガイド

問題	考えられる原因	解決方法
煙	操作方法	ドアを開ける前にプライマリーエアーコントロールを1分間全開にしてください。
	煙突が暖まっていない	最初の着火時に細い薪を燃やし、しっかりと煙突を暖めてください。
	煙突の詰まり	クレオソートの付着が進んでいないかどうか点検し、必要であれば煙突掃除を行ってください。
	煙突のサイズ	太すぎる場合：適切な口径の煙突に交換してください。 細すぎる場合：排気ファンを設置するか、適切な口径の煙突に交換してください。
	煙突が短い	煙突を付け足してください。
	煙突接続部の空気漏れ	点検口や部材間の接続部などをしっかりと密閉してください。
	2台以上のストーブによる煙突の共用	2台目以降のストーブは撤去してください。
煙の逆流	操作方法	ドアを開ける前にプライマリーエアーコントロールを1分間全開にし、薪の補充後も数分間全開の状態です燃やしてください。
	燃焼温度が低い	高温燃焼を心がけてください。
	煙突からの逆流	煙突トップを設置してください。
	灰が多すぎる	灰の除去を頻繁に行ってください。
燃えが速い	ドアからの空気漏れ	ドアをしっかりと閉めるか、ガスケットを交換してください。
	ドラフトが強すぎる	プライマリーエアーコントロールを閉めてください。煙突の点検をし、必要であればダンパーを取り付けます。
	煙突が長すぎる	煙突を短くするか、ダンパーを取り付けてください。
	煙突が太い	適した口径の煙突に交換してください。
	風の強い立地条件：	煙突トップを設置してください。
	ドラフトが強すぎる	ドラフトが0.1 W.C. を超える場合はダンパーを取り付けてください。
暖かくない	薪が乾燥していない	最低でも1年間乾燥させた薪をお使いください。
	燃焼温度が低い	高温燃焼を心がけてください。
	屋外でのシングル煙突の使用	断熱二重煙突に交換してください。
	煙突やストーブパイプの空気漏れ・劣化	煙突のチェックをしてください。
	建物からの熱損失	窓のコーキングなどの補修を行ってください。
	灰が多い	頻繁に灰の処理を行い、乾燥していない薪を燃やさないようにしてください。
ストーブ表面の変化	操作方法	焚きすぎが原因です。ストーブの表面温度を頻繁にチェックし、乾燥した薪のみご使用ください。
	ドラフトが強すぎる	ドラフトをチェックし、必要に応じてダンパーを取り付けてください。プライマリーエアーコントロールを閉め、低温燃焼を心がけてください。

パーツリスト

品番	PARTS
595-274-V	BAFFLE
595-377-V	SECONDARY AIR SUPPORT
595-379-V	STONE LEVELING PLATE
595-278-V	FRONT DOOR TOP HINGE PLATE
595-284-V	FRONT DOOR TOP HINGE PIN (.31"x.98")
605-132-V	ASH PAN FAÇADE
635-011-V	ASH GRATE, ROTATING
635-052-V	ASH GRATE BASE
635-053-V	GRATE ROD
650-047-V	AIR CONTROL SHUTTER
505-064-V	BASE PLATE
530-120-V	TOP PLATE
565-132	REAR INNER AIRDUCT
565-133-V	SECONDARY AIR RING ASSEMBLY (W/PIPE)
565-137-V	INNER AIR DUCT
575-184	FIREBOX JACKET
800-013-V	ASH TRAY
601-422-V	LEFT SUPPORT
601-425-V	RIGHT SUPPORT
780-017-V	UPPER BAFFLE
3917-100125	GLOVE
6400-40459	OWNERS MANUAL
SP-150GR	AEROSAL PAINT GREY
170-050-V	VERMICULITE PANEL SET
180-218-V1	SIDE PANEL (4EA)
180-240-V	TOP PANEL
	OPTIONAL ACCESSORIES
91-53700	OUTSIDE AIR KIT
	STONE
1141-820-149-V	RIGHT STONE PANEL
1141-820-150-V	LEFT STONE PANEL
1141-820-148-V	TOP STONE RING